

オープンキャンパスに参加する高校生の意識調査

久保田尚・田中理絵

A survey of high school students to participate in open campus of the Faculty of Education,

KUBOTA Takashi, TANAKA Rie

(Received September 27, 2013)

1. 問題の所在

教員養成・教員免許の改革に関する議論は、基本的には平成9年の教育職員養成審議会第1次答申の方向に向かって進められており、それと平行して、大学改革についても議論が繰り返されている。平成25年現在においては、文部科学省の提示する大学改革の方向は「激しく変化する社会における大学の機能の再構築」と「大学のガバナンスの充実・強化」の2本柱があげられ、「大学機能の再構築」とは「1. 大学教育の質的転換、大学入試改革、2. グローバル化に対応した人材育成、3. 地域再生の核となる大学づくり構想の推進、4. 研究力強化（世界的な研究成果とイノベーションの創出）」がその内容として提案されている^(注1)。教員養成教育が大学でなされる以上、今後のあるべき教員像に関する議論も大学改革の流れを無視して話すことはできず、当然、大学教育の質的転換がそこでも求められているといえる。

では、そうした大きな潮流のなかで、教員養成教育は具体的にはどのような改革が求められているのだろうか。平成18年中央教育審議会答申をみると^(注2)、大学における教職課程を「1. 教員として最小限必要な資質能力^(注3)を確実に身に付けさせるものに改革する」ことと「2. 教員免許状を、教職生活の全体を通じて、教員として最小限必要な資質能力を確実に保証するものに改革する」ことであり、そのなかでは、教員養成教育に関するカリキュラムの根本的見直しと学生教育の質の保証—特に教員として最低限身につけるべき資質・能力の保証—が求められている。

確かに、激しく変化する社会においては、学校教員についても生涯学び続けることが求められるであろうし、その養成段階にある大学生に対する教育カリキュラムの見直し・充実も重要な課題となるであろう。また、それに付随する課題として、大学入学制度の見直しや、どういった学生を育成したいか（入学してほしいか）に関する広報活動といった入口の問題にも各大学とも関心を寄せなければならない。

こうした関心のもと、山口大学教育学部のオープンキャンパスにおいて、教員養成課程小学校教育コースでは、コースの説明会に参加した高校生たちに対して質問紙調査を行った。本稿は、その調査結果の分析・考察を行うものである。また、高校生だけではなく、コース在大学生への質問紙調査も行い、教員養成系大学への進学に関する高校生たちの意識・態度、高校における進路指導の様子について、その一側面を明らかにしようと試みた。なお、当該コースの入学試験は、定員30名のうち9月に実施されるAO入試で20名の合格者が、センター試験と小論文試験を課す入試によって10名の合格者が決定する2種類の試験で実施している特徴をもつ。

2. 調査の概要

本稿では、平成24年8月4日・平成25年8月3日に開催された山口大学教育学部オープンキャンパスの教員養成課程小学校教育コースに参加した高校生に対する質問紙調査と、平成25年8月3日に実施した同コース所属学生に対する質問紙調査の結果を使用する。概要はそれぞれ以下の通りである。

①高校生調査

◆調査対象：平成24年度、平成25年度に開催された山口大学教育学部オープンキャンパスの教員養成課程小学校教育コースに参加した高校生（それぞれ160名、226名）。高校1年生10.1%、2年生17.4%、3年生72.5%。出身県は山口県54.1%、広島県14.8%、福岡県9.8%、岡山県6.2%、愛媛県3.9%、そのほか（大分・島根・鳥取・高知・熊本・鹿児島県等）11.1%。

◆調査方法：自記式による質問紙調査。

◆調査時期：2012年8月4日、2013年8月3日

◆有効回答数：386名（男子126名、女子260名）。男子32.6%、女子67.4%。

②大学生調査

◇調査対象：山口大学教育学部教員養成課程小学校教育コース1年～4年

◇調査方法：自記式による質問紙調査。

◇調査時期：2013年8月3日

◇有効回答数：男子36名、女子87名（男子29.3%、女子70.7%）。

3. 分析結果

(1)オープンキャンパス参加高校生の進路希望の状況について

ところで、教育学部のオープンキャンパスに参加する高校生だからといって、必ずしも教員になることを志望しているとは限らないだろう。そこでまず、教員になることを希望している高校生の割合について調べてみた（表1）。その結果、教員志望者が全体の8割以上を占める

表1 教員志望者割合（学年別、性別） %（人数）

		将来、先生になりたいと思いますか			合計
		はい	いいえ	悩み中	
学年	1年生	51.8	10.3	37.9	100.0(29)
	2年生	86.0	0.0	14.0	100.0(50)
	3年生	91.4	2.9	5.7	100.0(209)
合計		86.5(249)	3.1(9)	10.4(30)	100.0(288)
性別	男子	91.2	3.2	5.6	100.0(125)
	女子	87.5	1.9	10.6	100.0(257)
合計		88.7(339)	2.4(9)	8.9(34)	

$\chi^2=37.156$

df=4、p=.000***

ns

表2 当該コース入学希望者の割合（学年別、性別） %（人数）

		本コースへの進学を希望するか			合計	
		はい	いいえ	悩み中		
学年	1年生	39.3	14.3	46.4	100.0 (28)	$\chi^2=52.487$ df=4、p=.000***
	2年生	44.0	0.0	56.0	100.0 (50)	
	3年生	80.7	2.4	16.9	100.0 (207)	
合計		80.2 (200)	3.2 (9)	26.7 (76)	100.0 (285)	
性別	男子	77.0	4.4	18.6	100.0 (113)	ns
	女子	69.8	2.3	27.9	100.0 (222)	
合計		72.2 (242)	3.0 (10)	24.8 (83)	100.0 (335)	

こと、そして性別による差は見られないことがわかった。学年別では、高学年になるほど教員志望者の割合が高くなるが、これは大学受験を前にして進路希望が固まってきていることを示していると考えられる。なお、この傾向は当該コースへの入学希望者割合においても同様の結果であった(表2)。

では、教員になることを希望している回答者（高校生）は、いつ頃から教員になることを考えるようになったのだろうか。その結果をまとめたのが表3である。7割近くの生徒が、小学生・中学生の時点で教員になることを考え始めていることがわかる。生徒たちが先生に対しあこがれを抱くのは、先生が身近に感じられる小・中学生の時期なのであろう。

表3 いつころから先生になりたいと思ったか

	小学生から	中学生から	高1から	高2から	高3から
24年度 (110名中)	32%	34%	15%	13%	6%
25年度 (142名中)	43%	32%	13%	8%	4%

表4 教員希望者と本コースへの入学希望者 %（人数）

		本コースへの入学希望			合計
		はい	いいえ	悩み中	
将来、先生になりたいと思いますか	はい	80.0	0.7	19.3	100.0 (296)
	いいえ	0.0	87.5	12.5	100.0 (8)
	悩み中	13.3	3.3	83.4	100.0 (30)
合計		72.1 (241)	3.0 (10)	24.9 (83)	100.0 (334)

また、オープンキャンパスに参加している「将来、先生になりたい」高校生のうちで、山口大学小学校教育コースへの進学を希望する者の割合は表4の通りであり（表4、 $r=.439$ ）、人数のばらつきが大きい点に注意が必要であるが、教員志望者の約8割が当該コースへの進学を考えていることがわかる。オープンキャンパスは、高校生にとって自分の進路希望先を実際に見て、所属する教員・学生に話を聞くよい機会として利用されているようである。

(2)オープンキャンパス参加高校生の進路希望について

次に、本コースへの進学を希望する高校生に注目して、彼らがどのように進学について考えているのかについて、その特徴をみつけてみたい。比較対象は、当該コースへの進学について「悩み中」と回答した高校生を設定した。

当該コースへの進学希望者のオープンキャンパスへの参加理由は、設定した項目別にみると、最も多いのは「AO入試があるから」69.6%、「カリキュラムに特徴があると聞いたから」67.5%であり、つづいて「実家が県内だから」47.4%、「高校の先生が勧めたので」46.8%、「卒業生の話聞いて興味を持ったから」31.8%という結果であった。山口大学のAO入試は9月に実施され、センター試験を課しておらず、早い時期に進路を決定することができる。また、たとえAO入試に落ちたとしても、一般入試（試験科目は小論文）で再度受験することが可能となる。したがって、本コースへの入学を希望する生徒の多くがAO入試の受験を試みるため、入学試験直前の8月に設定されているオープンキャンパスは、入試やカリキュラム等の情報収集に役立つと考えられているのだろう。これは表5にあるように、当該コースへの進学を悩んでいる最中の高校生と比較して、本コースへの進学を希望している生徒のホームページの閲覧経験率が有意に多い点からも推測できる。

%（人数）

	小学校教育コースへの入学について			
	希望	悩み中	計	
1. 本コースのHPをみたことがある	79.6(187)	38.8(31)	69.2(218)	***
2. 将来、山口県で先生になることを目指している	68.4(158)	43.2(32)	62.3(190)	***
3. 人前で話すのはわりと得意	74.8(175)	51.3(41)	68.8(216)	***
4. 卒業した先輩に、山大の小研に進んだ人がいる	37.4(85)	25.6(20)	34.4(105)	**
5. 作文や小論文を書くのは、得意	50.6(119)	28.8(23)	45.1(142)	***
6. 計画的に物事を進めるほう	69.8(164)	57.0(45)	66.6(209)	**
7. 自分が学校の先生に向いていると思う	92.4(207)	59.4(41)	84.6(248)	***

※「はい」の割合について記載

*** p < .01、** p < .05

これらの質問項目については、このあと、平成24年度、25年度調査の比較のなかで詳細に考察を加えるが、大きくいえることは、進学希望大学の学科／コースまである程度決めていた高校生は、まだ進路を決定できていない高校生に比べて、情報収集や進学までに必要な力について意識できている割合が高いということである。特に、「7. 自分が学校の先生に向いていると思う」という項目は、根拠が薄弱であろうのに、92.4%という高い割合で「はい」と答えており、こうした意識をもって入学してくる学生に対して、どのような教員養成教育カリキュラムを設定するかは非常におもしろい点であろう。

(3)出身県別にみる小学校教育コースへの進学希望度・理由

さて、オープンキャンパス参加高校生の全体的な態度・意識について考察してきたが、ここからは出身県別に、彼らの態度・意識を把握していこう。山口大学教育学部小学校教育コースへの進学希望割合は、調査を行った平成24、25年度とも、学年があがるにつれて高くなる（高

校3年生で80%) 傾向にあった。そこで進路が定まってきた割合の高い3年生に限ってみると、本コースに進学を希望する者は、ほとんど教員になりたいと思っている。ただし、「先生になりたい」と答えた者の約15%は本コースへの進学を悩んでいる。

図1～図4を参照していただきたい。すべて24年度調査結果をグラフにしたものである。本コースへの進学を考えた理由として、県内の生徒で「実家が県内だから」が多いのは納得できる。24年度調査では、男子よりも女子が、25年度調査では女子よりも男子が多く理由にあげている。県外出身者では「高校の先生が勧めたので」や「AO入試入試があるから」の割合が高めである。県外では、AO入試があることで高校の先生が本コースへの進学を勧めているのではないかと推察される。

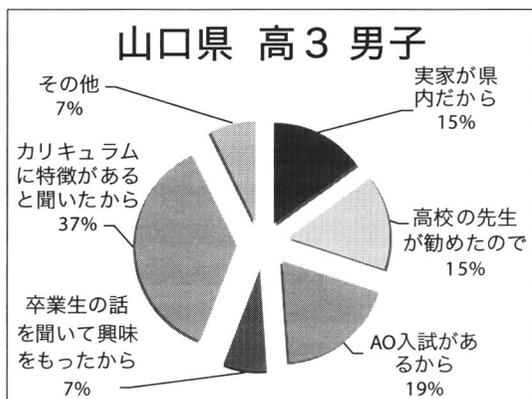


図1

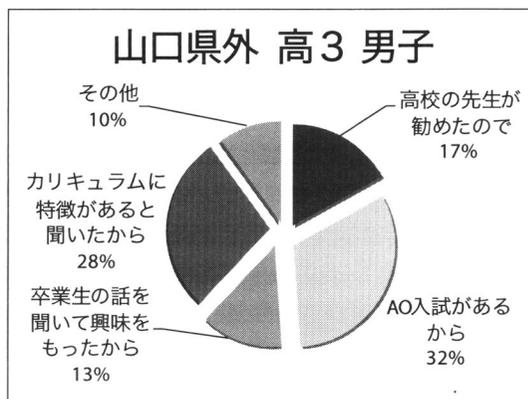


図2

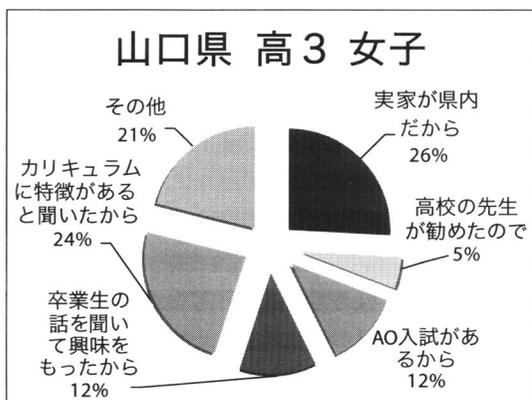


図3

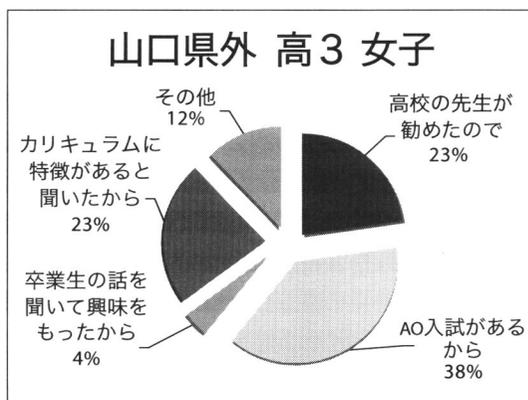


図4

また、県内外を問わず比率が大きいのが「カリキュラムに特徴があると聞いたから」という理由である。24年度調査では、山口県出身の高校3年生男子においてこれを理由にあげた者が37%もいた。カリキュラムについての情報をどこで得たのかということで、次の質問の回答が興味深い。「小学校教育コースのホームページを見たことがありますか」という問いに対し、およそ80%の生徒が「はい」と回答している。オープンキャンパスに参加する前から小学校教育コースについての情報を入手していることがうかがえる。県内の生徒よりも県外の生徒の

方が、ホームページを見ている率が若干高めである。また、保護者について集計してみても平成24年で69%、平成25年で51%の保護者がホームページを閲覧している。

(4)参加高校生自身のことについて（平成24年度調査と25年度調査の比較より）

「将来、山口県で先生になることを目指していますか。」という設問に対し、山口県出身の生徒で「はい」と答えた者が80～90%と高めなのは頷けるが、他府県の生徒でも30%に近い生徒が「はい」と答えている（表6）。遠いところでは、平成24年には静岡県の子が、平成25年には兵庫県や鹿児島県の生徒が「はい」と答えている。

表6 各アンケート項目に「はい」と答えた比率

山口県内の高校3年生	平成24年度	平成25年度
① あなたは本コース（小研）のホームページを見たことがありますか。	70%	78%
② 将来、山口県で先生になることを目指していますか。	81%	92%
③ 人前で話すのは、わりと得意ですか。	70%	65%
④ 卒業した先輩（生徒）に、山大の小研に進んだ人がいますか。	44%	51%
⑤ 作文や小論文を書くのは、得意ですか。	39%	43%
⑥ 計画的に物事を進める方ですか。	63%	71%
⑦ あなたは、自分が学校の先生に向いていると思いますか。	81%	82%

山口県外の高校3年生	平成24年度	平成25年度
① あなたは本コース（小研）のホームページを見たことがありますか。	85%	79%
② 将来、山口県で先生になることを目指していますか。	28%	27%
③ 人前で話すのは、わりと得意ですか。	70%	63%
④ 卒業した先輩（生徒）に、山大の小研に進んだ人がいますか。	17%	23%
⑤ 作文や小論文を書くのは、得意ですか。	58%	38%
⑥ 計画的に物事を進める方ですか。	67%	62%
⑦ あなたは、自分が学校の先生に向いていると思いますか。	87%	73%

AO入試でプレゼンテーションの試験が課されることは周知のことであるためか、「人前で話すのは、わりと得意ですか。」という設問に対しては、平成25年の方が若干低めではあるが、およそ7割近くの生徒が「はい」と答えている。それが、「作文や小論文を書くのは、得意ですか。」という設問に対しては、50%を切るくらいの生徒しか「はい」と答えていない。最近の生徒の特徴として、「話すことは得意だが、書くことは苦手」ということがあげられるであろう。「計画的に物事を進める方ですか。」という設問には60～70%の生徒が「はい」と答えており、やや低調な感否めないが、しかしそれでも最終的に「あなたは、自分が学校の先生に向いていると思いますか。」と問われれば、70～80%の生徒が「はい」と答えている。

平成24年度末、山口大学教育学部の小学校教育コース第1期生が巣立っていったが、これまでの本コースへの入学者(平成21年度より開設以降、計約150名)の出身の高等学校から多数オープンキャンパスに参加していることがアンケートの結果で見とることができた。県内の生徒においては約半数、県外の生徒でも約20%が、卒業生に本コースへ進学した先輩がいると答えている。逆に捉えてみると、小学校教育コースへまだ進学した実績のない高等学校での本コー

スの知名度は、いまだ低いとみることもできる。

(5)現役生の実態

では、実際に入試に合格し小学校教育コースに入学した学生たちは、どれほどオープンキャンパスに参加していたのであろうか。以下がその回答である。

表7

第2期生（平成22年入学）	16名 <31名中>
第3期生（平成23年入学）	11名 <30名中>
第4期生（平成24年入学）	17名 <31名中>
第5期生（平成25年入学）	19名 <31名中>

年度があがるにつれて参加した人数は増えてきている。AO入試を受けた学生についてはほとんどの者が、一般入試で入った学生も数名はオープンキャンパスに参加していた。さらにはオープンキャンパスに参加した学生のほとんどが小学校教育コースへの入学を強く志すようになったと回答している。

その理由として多くあげられていたのは、「プレゼンや質問に答える現役生の態度・雰囲気」であった。小学校教育コースでは、オープンキャンパスの際に現役生（1、2年生を中心として）がコースの紹介や大学生生活についてのプレゼンテーションを行い、そののち受験についてなどの相談コーナーを設け高校生等の質問に応じている。このときの現役生の態度・雰囲気によって本コースへの入学を強く意識するようになったようである。オープンキャンパスにおいて何がためになったかという質問に対しては、現役生によるプレゼンテーションがやや多く、次にはコース主任の話、相談コーナーが続いている。

最後に現役生が小学校教育コースを受験するに至った最大の要因を訪ねたところ、「自分自身の意思」が一番多かった。一般入試で合格した者は「センター試験の点数」という答えも見られたが、「第三者（先生・家族・先輩など）の勧め」をあげた学生は若干名であった。

4. まとめと今後の課題

本コースに入学した現役生へのアンケートからも分かるように、本コースへの入学に際してオープンキャンパスの存在意義は大きい。なかでもAO入試で本コースに入学しようとする際の入学への意欲付け、情報収集という面ではかなりのウェイトを占めることが分かった。

本コースの「Graduation Policy」にあるような意欲的で実践的な教員としての資質の高い学生を少しでも多く入学させようとするならば、オープンキャンパスのさらなる充実を図ることが大切である。現役生が生き生きと活躍する姿を見せることは、入学希望者の入学への意欲を高めることに大いに影響するため、オープンキャンパスに参画する学生にはその意義をよく伝えておきたい。また、オープンキャンパスへより多くの生徒に参加してもらうためには、本コースを広く周知するための広報活動をしたりホームページを充実させたりすることも重要である。

<注>

注1)「大学改革実行プラン」(平成24年6月5日発表)。2つの柱と8つの基本的方向から構成。

2つ目の柱「大学のガバナンスの充実・強化」の内容には、第一に「国立大学改革」があげられている。

注2) 中教審答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)」(平成18年7月11日)

注3) 養成段階で修得すべき最小限必要な資質能力とは、具体的には「教職課程の個々の科目の履修により修得した専門的な知識・技能を基に、教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担当しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質能力」(注2答申より抜粋)のことである。